

1 教科について

国 語

昨年度の課題

自分の考えを効果的に伝えるために、適切な理由を書く。自分の考えを効果的に表すために、文章全体の構成を考える

聞き漏らし、聞き誤り、勘違いなどをしないように、短い時間で集中して聞き取る。

登場人物の心情を的確に読み取る力をつける。

昨年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

教科書の「書くこと」の教材に対して、学習の流れを図式化したプリントや自分の考えを筋道立てて書くためのワークシートを用いて学習内容の定着を図る。

授業や学校生活全体の中で、人の発言をしっかり最後まで聞く姿勢を育てる。

副教材を使った指導や、発問の精選、小グループによる意見交流の場を設定した授業形態などを工夫する。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	75.5	%
市平均	73.2	%
学校平均	77.8	%

領域ごとの平均通過率(%)

	聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
学校	79.6	73.2	75.9	81.0
市	81.5	66.9	70.8	76.0
県	83.8	72.3	71.0	77.3

重点課題

「書く」こと、ことに字数制限のある記述問題に関しては無回答率が14.3%と高く、書けないと判断すると最初から手をつけない傾向にあると考えられる。

文法の主述関係の問題の誤答率が63.3%と高い。文法の理解が十分でなく、正しい文章構成ができていないことの表れといえるであろう。

文章を聞き取り、その内容を整理し表現する力が未熟である。反面、字の読み書きといった言語事項に関しては基礎力が定着していると言える。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

「書くこと」への抵抗感をなくしていく必要がある。ノートへの小作文、授業評価文記入、日常生活の中での生活ノート記入等の活動を通して、短作文を繰り返し書くトレーニングを積み重ねていきたい。

文法指導に対しては、日々の授業の中で、文をとらえる場面でその繋がりを意図した指導を心がける。主述関係を意識して文の組み立てが理解できるように工夫を行う。

数 学

昨年度の課題

文章から数量関係を読み取り、比例であるか、反比例であるかを判別することを通して思考力を高めること。

空間における直線の位置関係を理解すること、および円錐の体積などを求めることができるようにすること。

事象の中の数量関係を文字を使って表現し、一般的に考えるようにできること。

昨年度の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

比例や反比例の関係の特徴を表や式、グラフでおさえ、いろいろな数量関係に触れることで、比例、反比例、それ以外を区別できるように演習を積んだ。

少人数で、ひとりひとりが立体を手にとって操作することで、空間図形に対して苦手意識をなくしていくとともに、証明問題を解きながら思考力を高めていくよう取り組んだ。

事象の中の数量関係の規則性を発見するために、表や図を使った解決方法を具体的に表し、多様な考え方に触れることで一般化できるように指導した。

「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	69.7%
市平均	68.3%
学校平均	75.1%

領域ごとの平均通過率(%)

	数と式	図形	数量関係
学校	78.3	70.8	72.2
市	72.4	64.2	62.7
県	73.9	65.4	63.8

重点課題

空間における直線と平面の位置関係を理解すること。

円柱の体積をもとに円錐の体積をもとめること。

演算が正しくないことについて具体的な整数を用いて理由を説明すること。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

空間における、直線と直線、直線と平面、平面と平面の位置関係については、具体物を用いて視覚的にも理解できるよう丁寧な指導を行っていく。特に、直線と平面が垂直になる場合を、直線が平面上にある場合と間違えやすいので垂直の意味からおさえた演習を積んでいく。

同じ底面積、同じ高さの柱体とすい体の体積は3:1になることを比較できるように、色水を使った教具や四角錐の体積説明機などを利用して習得させていきたい。

小グループを用いて自分の考えを発言していけるよう授業形態を工夫していきたい。また、授業の中で「なぜ」を大切に、答えを導くまでの過程や方法を理由をつけて説明できるよう取り組んでいきたい。

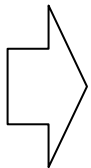
英 語

昨年度の課題

英語の問いかけに対し、正しく be 動詞・一般動詞・態を判断し迅速に応答する。
 基本的な英文のきまりを理解して、簡単な英文で表現すること。
 まとまった英文を読解するときその前後関係を把握し、会話の流れや趣旨を理解すること。

昨年度の課題から取組みの具体

既習事項について、be 動詞・一般動詞を意識しながら文として応答することを繰り返し学習させた。
 教科書を基本とした学習を定着させる指導をするとともに、速く音読する・聞き取る・理解する・答える・英文として正しく表現し書く力を育成する指導を展開した。英文として書くことや英語で問われた場合に簡潔な英文で答えられる力の育成に着目して日々の授業で指導を行った。
 まとまった英文を読む場合において、指示語・時制・概要をきちんと把握し読み取ることを指導した。



「基礎・基本」定着状況調査通過率

県平均	<u>65.2</u>	%
市平均	<u>63.5</u>	%
学校平均	<u>76.9</u>	%

領域ごとの平均通過率(%)

	話すこと	聞くこと	読むこと	書くこと
学校	85.5	71.0	79.1	72.9
市	76.5	59.3	69.3	52.2
県	78.0	60.6	69.7	56.2

重点課題

文章を単語レベルの理解から、さらに句のかたまり、文のかたまりとして視野を広げてとらえ、その中で主語にマッチする動詞の形等を判断することができるようにすること。
 数字・序数・時刻・月・疑問詞等を用いた表現について、正しく聞き取ったり素早く適切に応答したり書いたりできるようにすること。



重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

できる限り多くの英文(例文)にふれさせ、それぞれの文型の色々なパターンに慣れさせ、様々な主語の形、動詞のバリエーション、意味のかたまり等を意識した、読む・書く・聞く・話す力を育成できるよう指導する。
 クラスルームイングリッシュやALTとのTT授業、グループでの協同学習等の場面において、数字等を用いた表現を熟練できるほどにトレーニングできるよう、できる限り多くの機会を持ち指導する。

2 意識調査

(1) 生活・学習 (「基礎・基本」: 学校質問紙, 生徒質問紙)

改善したい点	今後の具体的な取組の内容
<p>生活に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の一日のテレビやゲームの時間 ・ 地域や子ども会などの行事への参加 <p>学習に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習の定着 	<p>毎日のテレビやゲームの時間が2時間前後の生徒が66.3%。3時間以上の子どもを含めると89.7%となることから、懇談会や説明会を通して普段のテレビやゲームの時間削減について啓発していく。地域行事への参加は最も低い数値であったが、習い事や部活動、休日であれば部活動の試合等で中学生以上の子ども達にとっては物理的に参加することは困難である、また、学校選択の弾力化によって地元で根付く要素が減っている中、参加できるのはどうしても一部の子供達になってしまう。したがってこの項目そのものを見直す必要があるのではないかと。</p> <p>家庭学習の定着率の低さは塾や家庭教師への依存率が非常に高いことと、家に帰ってからの過ごし方(テレビやゲームの時間の多さ)が原因となっている。日々の学級活動の中で学習記録を調査することを通して自立学習への意識を高め、保護者に向けても懇談会等で啓発していく。</p>

(2) 教科 (「基礎・基本」: 学校質問紙, 生徒質問紙)

教科	生徒の回答と学校の指導についての課題	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	<p>国語の学習の必要性は充分感じ、また、授業も分かりやすいと感じているようである。反面、繰り返しドリルを行う漢字の学習等には意欲を持たずにいる姿が見られ、漠然と学習を行っている傾向が感じられる。授業に対する興味も薄く、楽しみに思える授業の構築が一つの課題であろうと考える。</p>	<p>1学級15人の少人数授業であることで、学習者に目もよく届き、学習者自身も少人数であることで安心して学習に取り組んでいるようである。学習指導の中で一つ一つの言葉を大切に、そのつながりや使い方を意識させることによって、文法・漢字といった基礎的な語彙力を定着させていくことにつながっていくと思う。</p>
数学	<p>反比例の関係を考えるときは、反比例と比例の特徴を比較しながら考えることができていない。いろいろな関数の特徴を比較する場面を取り入れていかなければならない。また、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明することは苦手な傾向にある。授業の中で「なぜ」を問うなどして生徒自身が理由を説明できるような支援を行っていきたい。</p>	<p>授業では、小グループを用いて自分の考え方を発言していけるよう授業形態を工夫していきたい。その中で、友達の「なぜ」を大切に、教師が説明するのではなく、生徒たちの中で解決していけるよう支援しながら、生徒たちの発言力を段階的に向上させたい。</p>
英語	<p>わからない表現が出てきた場合、以前に習った他の表現を使って話すようにしている生徒が6割強おり、英語で会話をすることについての抵抗感は少ない。しかし、ALTの話を聞いたり会話したり、つなぎ言葉を使いながら会話を継続させることに苦手意識がある。これは聞いたことを日本語を経由せずに英語のまま理解し、素早く適切な応答を求められる「会話」への苦手意識と考える。</p>	<p>クラスルームイングリッシュ、グループでの協同学習等の場面において、できる限り多くの英語に触れさせ、quick response を求められる場面で英語を使う練習を繰り返していき、苦手意識を克服できるよう指導する。</p>

指導改善のための実施スケジュール

	~ 9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
	Plan		Do			Check		Action	Check
	結果の分析・H19の改善計画の見直し・H20の改善計画の実施				検証		次年度の計画		
【教科】									
国語			定期的に漢字テストを実施することで、漢字学習の習慣をつける 少人数小グループ学習で、意見を活発に言い合える雰囲気を作る 漢字ドリルの自宅学習を課題にし、自宅学習定着の一助とする						
数学			授業前小テストで反復学習をする 関連単元の指導の工夫と強化 毎時間の宿題題を与え、家庭学習の充実						
英語			リスニング指導の充実、「毎日ノート」を活用した表現活動、自己表現、 英作文指導の充実、家庭学習の充実(「毎日ノート」を活用した表現活動)、 ALTの活用(リスニング、自己表現)						
【生活・学習】									
1 学習を含めたリズムある生活習慣の確立				テレビやゲーム	時間の削減				
2 学習習慣の確立				宿題、復習を家庭	学習に位置づける				